



莉乃の にもっ

いとうみく

絵・やないふみえ



憤まんやるかたない。

小説のなかにてできたことばだ。いまどきこんな大げさなことは使う人なんていないでしょ、って思っていたけど、いまのあたしの気持ちを表現するのに、こんなにぴたっとくることばはない。

怒りに震えながらすすすんと鼻をすすつてしていると、さつこが「ん」ってポケットティッシュをくれた。

「バカ男子の言うことなんて気にすることないって。あいつら中二になったって、なんも考えてないんだから」

わかっている。あんなやつ、アホだしいい加減だし、職場体験だって「行きたくない」とか「やだ」とか言ってる先生に呼び出されるようなテキトー人間だ。

気にすることなんてない。ないはずなんだけど、あたし

はさつきムキになった。ムキになって、不覚にも泣いたりなんてしっちゃって……。

ムキになったのは、あいつの、斗羽風汰とばふうたの言ったことが核心をついていたからだ。

だとしても「ムカつくっ」。

思わずことばがこぼれると。さつこが笑いながら「どうどう」と馬をなだめるみたいにあたしの肩を二度叩いた。

事の起りは、数分前に遡る。

職場体験の最終日に、スタツフさんたちにお礼のカードを渡そうってことになって、夕方、さつこことふたりで文房具屋さんにカードを買いに行った。その帰り、ミスドに寄ってお茶してたら、同じクラスの男子、吉岡よしおかが入ってきた。